

2008.6.30

みなさんこんにちは、男女共同参画WGです。

先日、ある会合でお弁当が出ました。ただ美味しいお弁当だ、といただいたのですが、後で説明をうかがったところ、それは「ユニバーサルデザイン」（＝すべての人が利用しやすいよう配慮した物作り）のお弁当で、視覚に障害がある方でも食べやすいような工夫が凝らされていたのです。お弁当の上ぶたのところにお箸がついている（→どこにお箸がついているのかすぐ分かり、探す必要がない）、おかずは全て味がつけてあるものを詰めてある（→視覚障害者にとっては、お弁当の中からしょう油を探し、かけるべきおかずに的確にかけるというのは難しい作業）、お弁当の箱にくぼみがついている（→持ちやすい）……。工夫としてはちょっとしたことかもしれませんが、障害をもつ方にとってはとても大きな意味をもっていて、そしてその工夫をすることによって、健常者にとっても使いやすいものになるのだ、ということを実感しました。

そこでふと思ったこと・・・島根大学で男女共同参画を進めるというのは、このお弁当のようなものではないか、ということです。障害をもつ方にとって使いやすいものによって健常者にも使いやすいものになる。女性に働きやすい職場にしていくことによって、男性にも働きやすい職場になる。島根大学の“ユニバーサルデザイン化”のため、男女共同参画WGも取組を進めていこうと思います。

出雲キャンパス一女性スタッフ支援室主催の講演会が開催されました

6月24日（火）医学部臨床大講堂にて、演者に山田正人氏（「経産省の山田課長補佐、ただ今育休中」の著者、現経済産業研究所総務副ディレクター）を迎え、講演会：「男性の育休を通じて考えるワークライフバランス」が開催されました。非常に生き生きとした語り口で、個人的な育休の体験談から、夫婦共に家事・育児を担うことの子供に与える影響、社会構造・日本経済に与える影響などを、数値データをあげて俯瞰する内容も語られ、たいへん斬新な講演であったと言っても過言ではありません。この種の講演は出雲キャンパスではほとんど初めての経験で、講演会後のアンケートには「とても衝撃的だった（医学科6年男子学生）」「男性を甘やかしてはいけないことがよく分かった（医学科女子大学院生）」など、たいへん興味深い感想も寄せられました。

なお、この講演の様子は氏の快諾を得て録画しております。ぜひ、松江キャンパスでも上映会を開催したいと思います。乞うご期待！

島根大学女性研究者支援モデル事業の概要について、HPに掲載しました

先月のメールマガジンでお伝えし、またテレビ・新聞等でも報道されておりますように、男女共同参画WGで立案した女性研究者支援事業案が、平成20年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムに採択されました。その事業の概要について、島根大学HPに掲載しましたので、ご覧ください。

島根大学トップページのトピックス欄 6月23日付「女性研究者支援モデル育成プログラムが採択」の項をクリックするとご覧になれます。また、右下にある「大学改革GP」や左列の「快適な学内環境に向けて」→「男女共同参画推進への取組み」の項からもご覧になれます。

また、本事業については、医学部附属病院「新しいキャリア継続モデル事業」のHPにも紹介されています。これは医学部附属病院の「女性スタッフ支援室」が運営しているHPです。あわせてご覧いただければ幸いです。

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/woman/index.html>

このメールマガジンについてのご意見・ご質問等は

kyodo-sankaku@jn.shimane-u.ac.jp

まで お願いいたします。

★ お願い ★ このメールマガジンは、島根大学の構成員全員にお伝えしたい内容を掲載しております。allstaff宛のアドレスにお送りしていますが、学部によっては講座の代表者の方には届かない設定がされているところがあるようです。そのような場合は、代表の方が講座内のスタッフ全員に転送・配信下さいますようお願いいたします。また、PC環境にないスタッフがおられる講座等では、たいへんお手数ですが、プリントアウトして回覧していただければ幸いです。